

ラグランスリーブの運動量

Movement-quantity about Raglan-sleeve

鶴上美子
(協力 大沢朱美)

ラグランスリーブとは衿ぐりから、そで下にかけて斜めの切替線の入ったそでで斜めの切替線が肩の途中から入っているものを Semi-raglan sleeve という。

本来はスポーティーなものやコート等に多く用いられてきたが昨今はドレッシィなもの、スポーティーなものを問わずラグランスリーブの台頭をみるようになった。

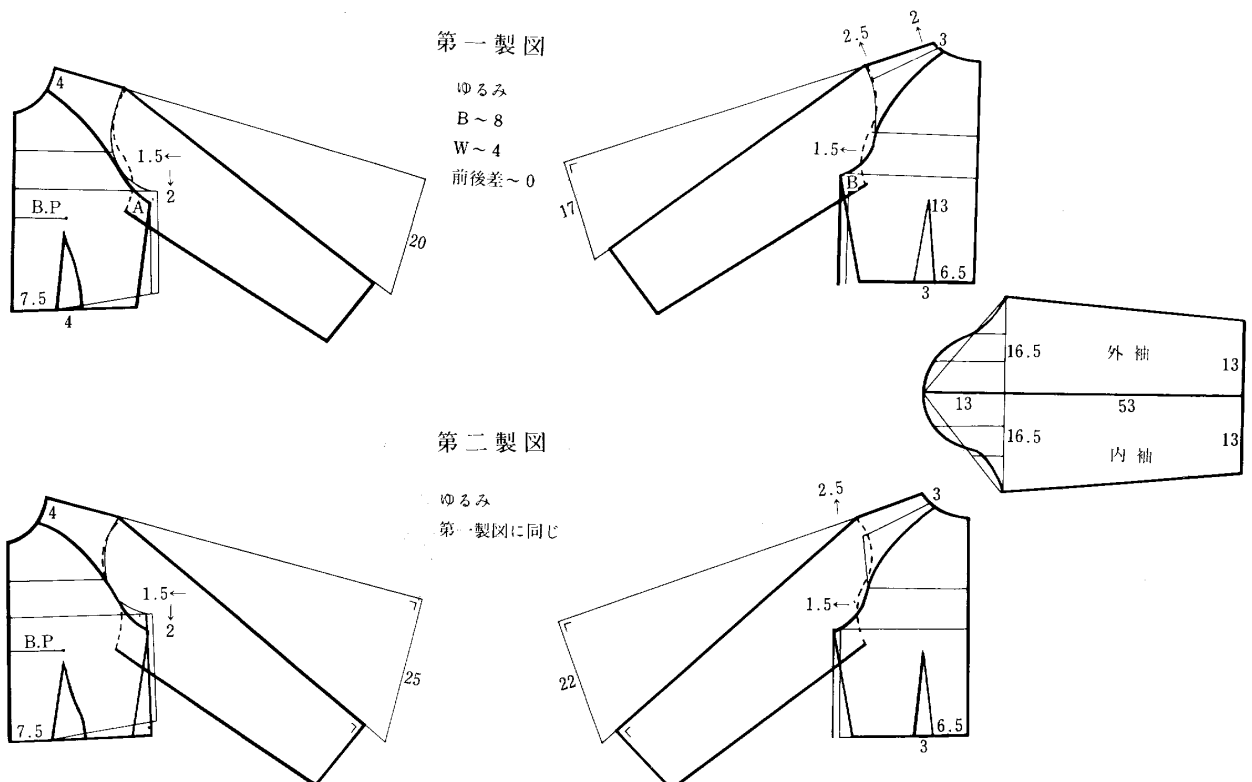
ラグランスリーブの名称は、かつてのクリミア戦争のとき英国の司令官であったラグラン伯爵が戦場での負傷者が容易に着脱出来るようにと考案した衣服の袖で、それによってラグランスリーブの名が使用され現在に至ったわけである。

このラグランスリーブの運動量を考え、運動量の算出方法について説明することにする。

現在までラグランスリーブの運動量は製図の場合、またフィッティングの場合などに本人の経験を基礎に又は

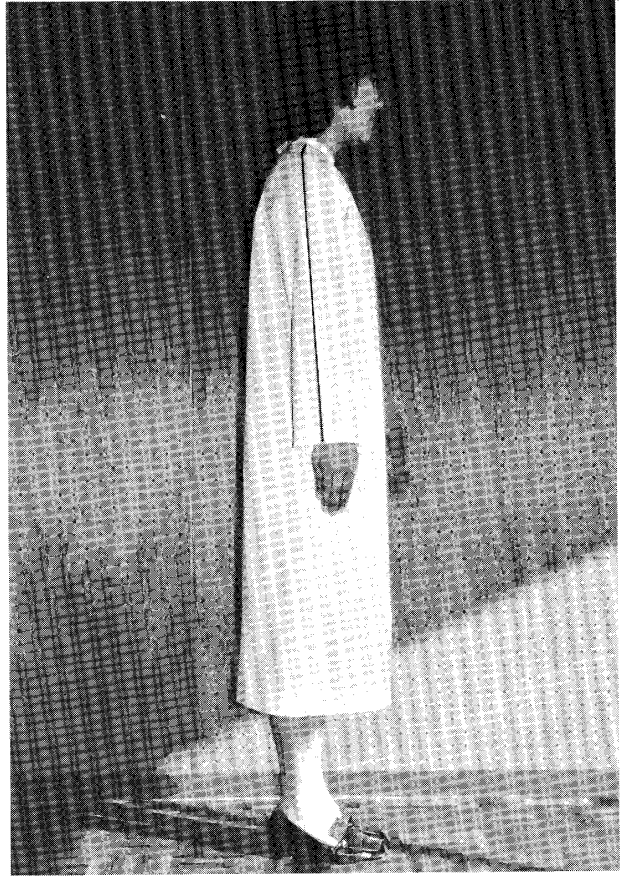
感覚的なものを加えたりして決定されていたことが殆んどであった。それではっきりと目安になる運動量の算出を製図の段階で決定する方法を発表する。

第一製図・第二製図はワンピースドレスということに限定して、トップの部分のみの製図であるが第一製図と第二製図を比較してみると袖先での下り分の角度が第一製図より第二製図の方が大になっていることが判ると同時に、その角度が大になればなるほど脇下での身頃と袖の袖底部分の交差分量(A・B)が多くなっている。これは袖先の下り分の角度が大になれば、それに正比例して脇下の交差分量が多くなっていく。この交差分量(A・B)がラグランスリーブの場合、最少限度の運動量ということになる。この最少限度の運動量を決定した後 Fitting・Design 等によって最もその衣服が美しくみえるよう増寸を考えていけばいいということである。

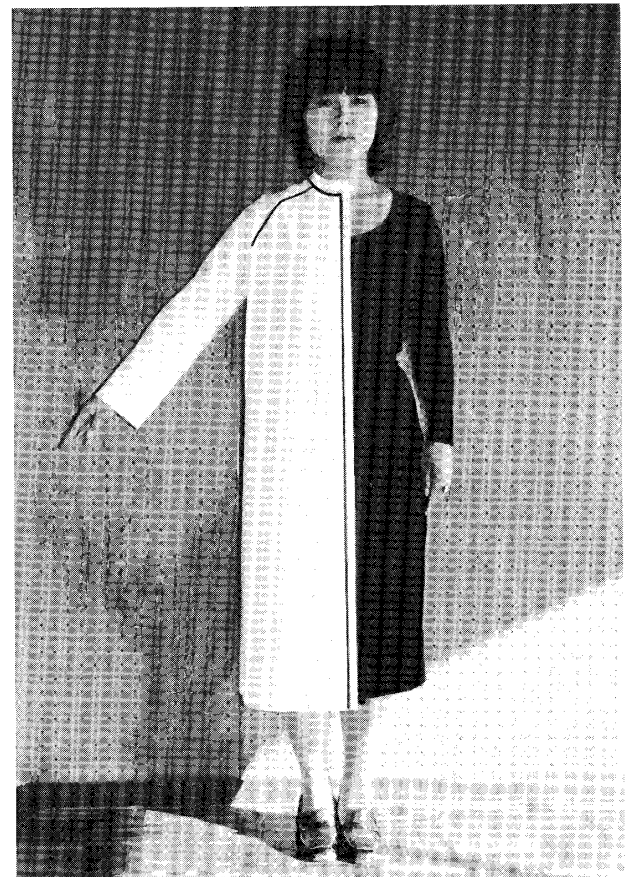


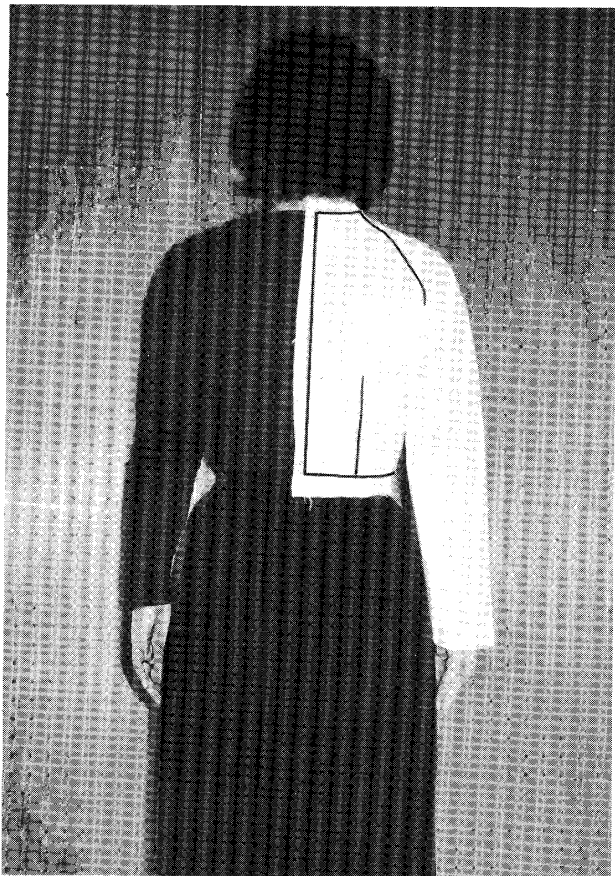


正 面

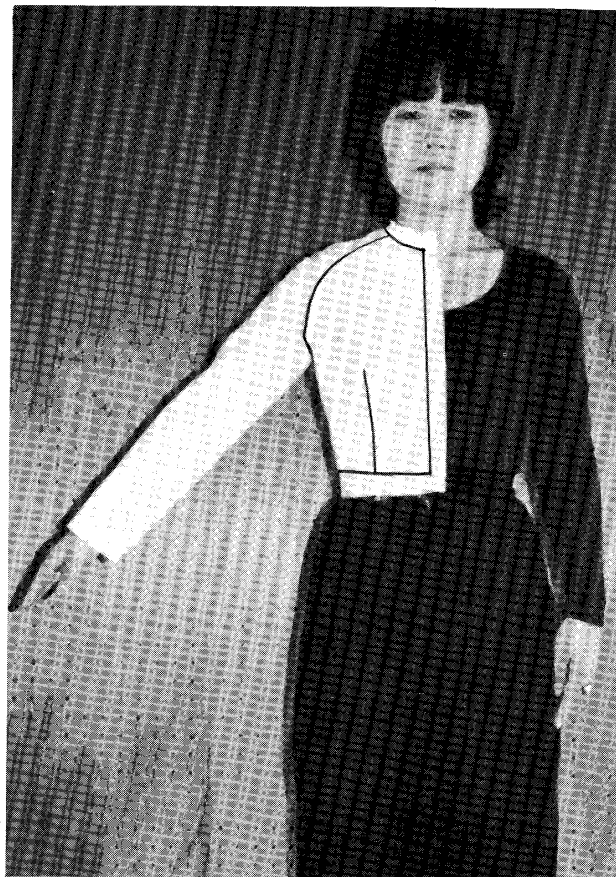


側 面

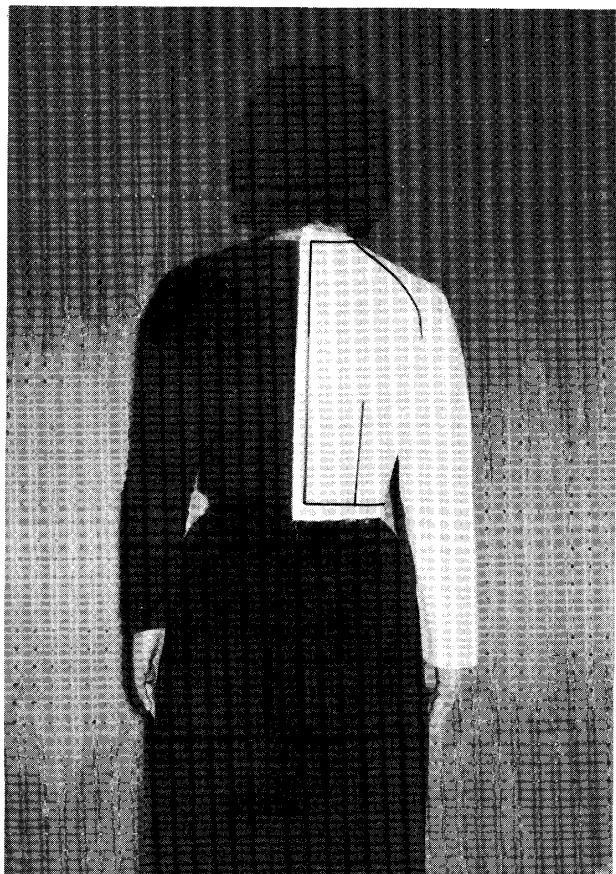




背 面



腕をあげたところ



背 面



腕をあげたところ

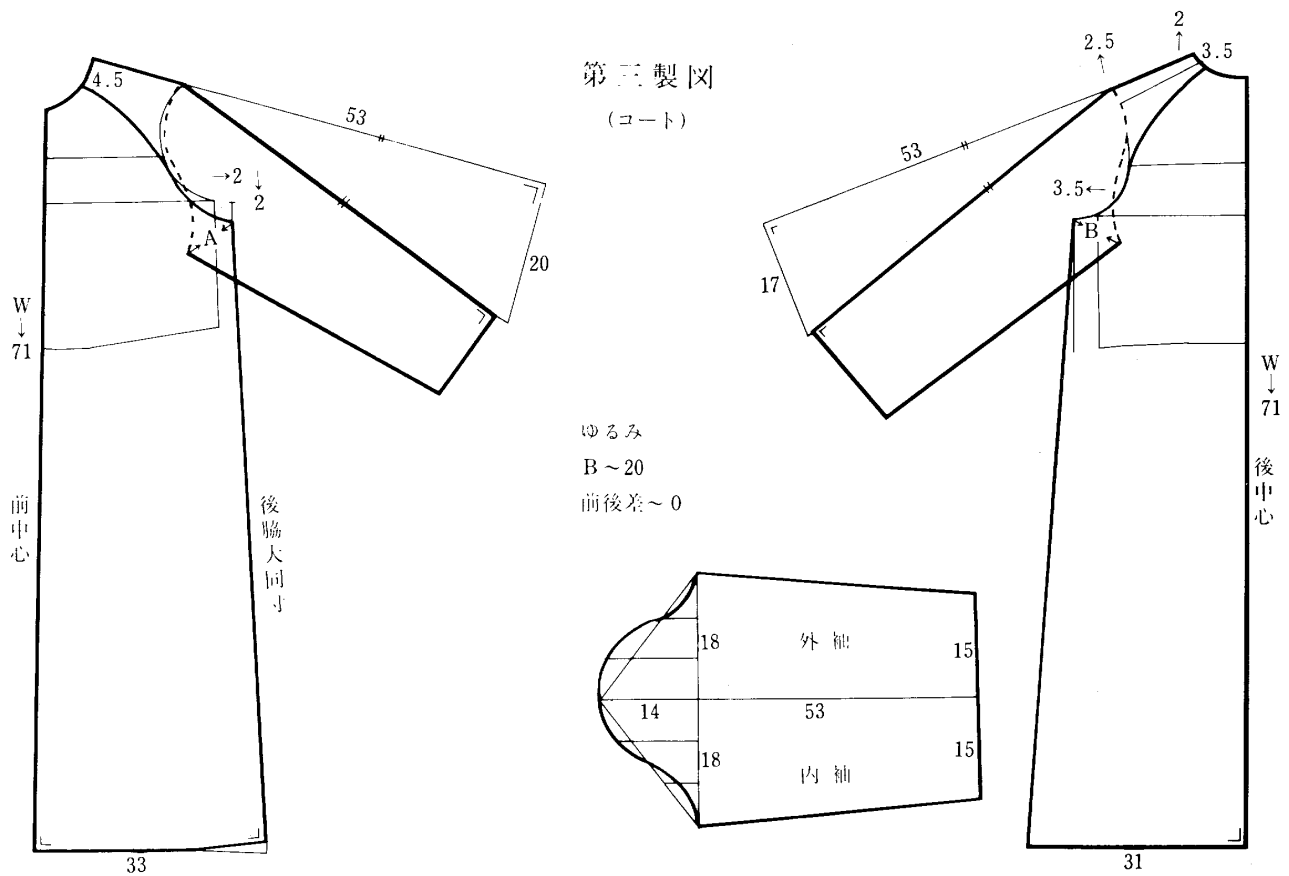
写真を参考にして今一度説明を加えると、製図上で袖先の下り分の角度が第一製図・第二製図と異なっているが、正面・側面・背面・腕をあげた場合と比較しながらみると、上下の腕の運動量は製図の面では異っていても結果的に実物制作のサンプルをみた場合、全く同じであることがわかるであろう。

第三製図はコートにした場合の運動量であるが、袖先での下り分の角度は第一製図と同じであるが、コートの場合はワンピースドレスよりもゆるみの分量が多くなる

ため（身頃・袖とも）必然的に交差分量が多くなることになる。この交差分量（A・B）が即ち運動量ということである。

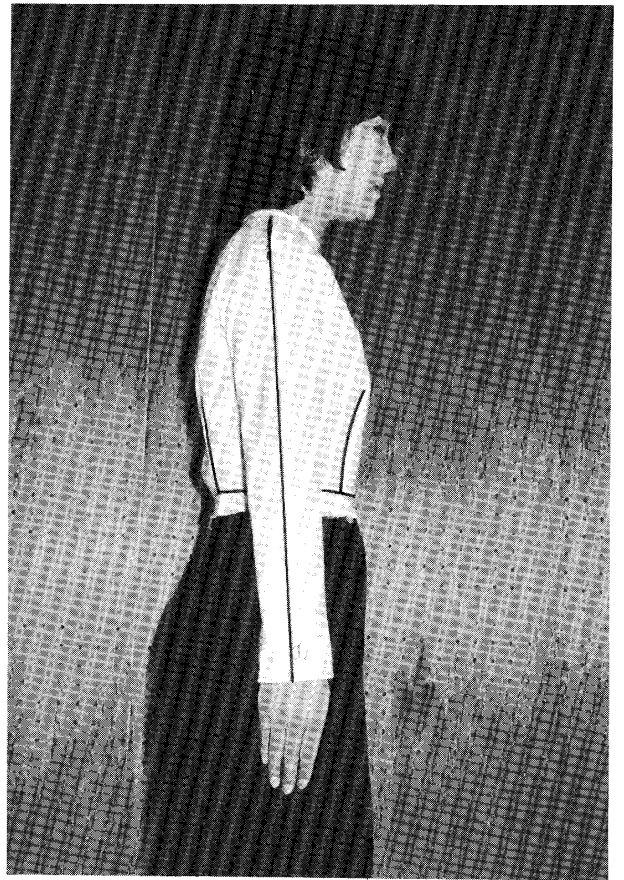
このようにして最少限度の運動量（A・B）が決定したら、あとは素材の厚さやデザインによって、又体型に適合させ、運動量の増寸を考えればよい。

ラグランスリーブのカーブラインは時代時代の流れによって、カーブの強弱に変化がみられるので、これは時代感覚に応じて決めることが必要である。





正 面



側 面

